

令和7年度

第74回 卒業式 式辞

厳しい寒さを越え、春の息吹が静かに芽生えるこの佳き日。本日ここに、大阪府立寝屋川高等学校定時制の課程 第74回卒業証書授与式を、卒業生、保護者、ご来賓の皆様とともに迎えられたことを、心からうれしく思います。

ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。これまでの道のりを考えると、今日という日を迎えることは、決して当たり前のことではありません。みなさんは仕事と学業の両立や、日々変化する生活に、体調や気持ちに折り合いをつけ、一人ひとりが、それぞれの事情と向き合いながら、夜の教室へ足を運び続けました。

その積み重ねた日々があったからこそ、今日という日を迎えられたのです。

思うように進めない時期がありながらも諦めずに通い続けた人、途中から学び直しを始めた人、遠回りを覚悟して、自分のペースで歩み続けた人。

これまでの経験は、きっとこれから出会う誰かの痛みや、背景を理解できる視点となり、生きていく上で
の力になるものだと思います。

今日は、皆さんのこれからを支える二つの力についてお話しします。

一つ目は、「自己理解の力」です。古代ギリシャの言葉に「汝自身を知れ」と言う言葉があります。これは、自分の強みや弱み、得意・不得意を知ることによって、自分に合った目標設定や人生設計がしやすくなり、また、日常生活でも、自分の無知や不足する点を認識することによって改善点が見え、人間関係もより円滑になるということです。

とはいえ、自分を知るとは、他者を理解するのと同じくらい、あるいはそれ以上に難しいとも言えます。

しかし、皆さんが“ねやてい”で積み重ねた時間は、自分の歩幅を静かに見つめる日々でもあったと思います。

遅刻してしまった日、教室に来るのがつらかった日、それでも来ようと決めた日、その気持ちの一つひとつが「自己理解」を深めてきた歩みです。

これから先も、“自分の歩幅”を意識し歩むことは、無理をせず生きるための力になると思います。

二つ目は、「関係をつくる力」です。これは、誰とでも明るく話せる能力のことではありません。他者を尊重しながらも、自分のエリアを守り、適切な距離でつながろうとする力のことです。そして、この積み重ねから、安心できる関係が作られるのです。

年齢も背景も異なる仲間が集う“ねやてい”だったからこそ、皆さんは自然とこの力を身につけてきたのではないのでしょうか。

相手を思いやる姿勢は、周囲に安心感をもたらす、大切な力です。皆さんの持つ“距離感覚”は、きっと周囲の安心につながると思います。

さて、最後に、皆さんと過ごした日々の中で感じたことを一つだけお伝えします。

それは、「強さとは、続けようとする静かな意志の積み重ねだ」ということです。皆さんが調子の整わない中、また、気持ちが沈む中、それでも教室に足を運ぶ姿には、どんな言葉よりも強い意思を感じました。

どうか忘れないでください。つまずいた日も、回り道をした日も、すべてが皆さんの物語を豊かにする大切な一ページです。これからも、自分の歩幅で、歩み続けてください。もし、長い歩みのどこかで、立ち止まらなければならない日があったとしても、かまいません。

なぜなら、再び歩き出す力——それこそが、皆さんがこれまでの日々で育んできた、何にも代えがたい強さそのものだからです。

保護者の皆様には、夜遅くまでの通学を見守り、励まし、ときに黙って支えてこられたことに、深く敬意を表します。

卒業生の皆さんの未来が、穏やかで、確かな希望に満ちたものであることを心から願い、私の祝辞いたします。本日は誠におめでとうございます。

令和八年二月二十七日

大阪府立寝屋川高等学校

准校長 服部 有晋